このほか、都市機構の青山自西日本支社北大阪都市再事務所長による事業概要の説明、主な関係者による鍬（くわ）入れが行われた。

区画整理の事業地は、大阪吹田市と摂津地にまたがる・1㌶。施行後は、約8・1㌶が道路や公園用地、約133㌶が宅地となる。事業費約110億円。

08年7月に都市計画決定され、今年4月に土地区画整理業の事業計画認可を受けている。現在、駅前広場整備の計画をコンサルに委託しており、今年度下期から仮換地指定は今年度、まちづくり財調査を実施して、駅前区画整備に着工する。

仮換地指定は今年度、まちづくりは10年度末を予定し、年度末に換地処分する。

また、都市機構は、区画整理のほか、約4㌶で居住環境向上事業、約1・1㌶で防災街区整備事業を実施する予定となっている。

同地の開発については、年度にまちづくりアイデア集コンペを実施しており、年度は土地を取得する民間業者を決める事業コンペを施する。

西日本高速関西

29日まで申請受付

長岡京第4高架橋鋼上部

西日本高速道路関西支社は29日、WTO（世界貿易機関）対象「京都縦貫自動車道長岡京第4高架橋（鋼上部工）工事」の一般競争入札を公告した。申請書を7月29日まで、電子入札システムで受け付ける。9月9日に開札する。

参加資格は、同社の鋼橋上部工工事の入札参加資格を有し、客観的事項1200点以上の単体か、1100点以上の2社または3社で構成したJVなど。

概容は、鋼上部工工事、本線橋（長岡京第1高架橋長さ179㍍、鋼3径間連続狭小箱桁橋、長岡京第4高架橋長さ454・5㍍、鋼10径間連続少数鈑桁橋）、ランプ橋（Bランプ橋長さ231・4㍍、鋼6径間連続少数鈑桁橋、Cランプ橋長さ228・8㍍、鋼6径間連続少数鈑桁橋）、鋼製橋脚1基。

工期は1290日。

工事場所は、京都府長岡京市調子3～下海印寺。

ねっとう君を使い清掃する参加者

整換と連専建近畿局が意見交換備

基幹技能者の活用を

「若者が将来託せる業界に」

建設産業専門団体連合会近畿地区連合会（近畿建専連、北浦年一会長）と近畿地方整備局は26日、大阪市中央区のKKRホテル大阪で意見交換会を開いた＝写真。近畿建専連は登録基幹技能者の活用などを要望し、整備局は「登録基幹技能者を評価する総合評価方式の試行など、活用を前向きに検討していきたい」と答えた。

冒頭、建設産業専門団体連合会の才賀清二郎会長は、「ダンピング（過度な安値受注）により、単価の下落や職人の賃金低下といった問題が起きている。行政には取り組みをお願いしたいが、われわれもダンピングをしないようにしなければならない。きょうは5項目が要望事項となっているが、このうち一つでも実行してもらえればと思っている」とあいさつした。

続いて、北浦会長は「意見交換の場を設けてもらうのは意義あること。優れた業者が生き残れるよう一緒に取り組んでいきたいが、職人にもスポットを当ててもらいたい。例えば、公共工事には労働3法保険に加入している職人を従事させるよう義務づけてほしい」と訴えた。

木下誠也近畿地方整備局長は「直轄工事での新しい総合評価方式の試みや各自治体への総合評価方式の導入拡大などに取り組んでいる。建設業を、若者の将来を託すことができるものとなるようにしていきたい」と述べた。

意見交換では、大阪府板金工業組合が「基幹技能者などの活用について」、大阪府塗装工業協同組合が「総合評価方式の発注形態について」、大阪建築工事金物協同組合が「下請代金の支払い適正化について」、全国コンクリートカッター工事業協同組合が「切断穿孔工の業種認定について」、全国鐵構工業協会近畿支部が「鋼材商社・ブローカーらへの指導と、公共工事における特記仕様への適切なグレード指定について」要望・質問した。

整備局は、総合評価方式については、専門工事審査型の試行や施工体制確認型の対象を予定価格6000万円以上に拡大したことなどを説明した上で、「発注者協議会で各自治体への導入促進に努めている」と述べた。

下請代金の支払いについては、現金払いの徹底を求めた建専連側に対し、「盆暮れ通知で、少なくとも労務費は現金払いとするよう伝えている」と回答した。

業種認定については、「建設業法の改正が必要になるため、追加を実現するのは難しい」との見解を示した。